すとーん・さーくる

No.90

発行　新潟県石仏の会（代表　星野　紀子）　2015年2月1日　発行
事務局　〒945-0837　柏崎市三島町16-2　渡邉三四一　電話0257-22-1941
ホームページ　http://niigata-sekibutu.voxx.jp

石仏散歩

水俣地蔵と虫地蔵

柏崎市　渡邉　三四一

平成十一年、阿賀野市千唐仁（せんとうじ）集落（旧安田町）に一体のお地蔵さんが建てられた。「阿賀のお地蔵さん」とも「水俣地蔵」とも呼ばれるその地蔵石仏は、遠く不知火海に注ぐ水俣川の転石で彫られ、背中に「不知火から阿賀へ　一九九八、四」と刻まれる。

きっかけは平成四年のこと。新潟水俣病に関わる地元有志が熊本の水俣へ地蔵さんを贈ったことに始まる。その地蔵には「阿賀の岸から不知火へ」と刻まれていた。水俣病でともに苦しむ両地区が、互いにエールを交換するかのように地蔵を祀り、この痛ましい人災を長く語り継ごうとしている。

千唐仁の水俣地蔵の隣には、昔から信仰されてきたツツガムシ除けの虫地蔵が祀られる。川岸に仲良く並ぶ新旧の地蔵は、様々な災厄から村を守るとともに、その再生を祈るための新たな拠り所となっている。

水俣地蔵の背銘

水俣地蔵（左）と虫地蔵

下越地区 石仏見学会参加記

長岡市　大楽和正

阿賀野市出湯周辺は、数多くの中世石仏が遺る地域として知られる。平成二十六年十一月二十五日（火）の見学会には総勢十一名の会員が参加し、出湯周辺の石仏と関連施設を探訪した。

はじめに訪問したのは、羽黒の優婆尊を安置する高徳寺。優婆尊は地元でウバサマと呼ばれ、安産や子育て、病気平癒の祈願所として信仰を集めている。

今回の見学会で最も興味深かったのが、本堂の背後に納められた数々の優婆尊像である。これらは優婆尊を信仰する個人や講中が所有していたもので、後に不要になって寺へ納めたものという。おどろおどろしい表情でありながらも、赤い衣を着て、頭に真綿を被った姿が強い印象を与える。新潟市内の個人が納めた木像などもあり、優婆尊信仰の往時の隆盛を偲ばせるものであった。

本堂裏の優婆尊像（高徳寺）

寺を出ると、境内には庚申塔・湯殿山塔と並んで「鹿倉　龍象大権現」と刻まれた石塔が立っていた。「鹿倉」は「カノクラ」と読むのであろうか。いわゆる寒倉講と称される寒念仏信仰にかかわる石塔であるが、珍しい刻字であった。

本見学会では出湯周辺の歴史に精通する川上貞雄氏にご案内いただいた。旧出湯小学校跡に設置された五頭の麓くらし館は、その川上氏が資料の収集から展示に至るまでかかわった資料館で、膨大な数の実物資料は圧巻である。

「鹿倉」銘の寒念仏塔

昼食後、川上氏の敷地内にある新潟県指定文化財の石櫃をご案内いただく。この石櫃は骨蔵器の外容器とされるもので、付近からは青銅製の聖観音立像や和鏡なども出土している。この石櫃は平成十八年に新潟県立歴史博物館で開催された企画展に出品されたそうで、私が着任する以前のことであるが、「二人いれば運べるか」などと、ついつい別の目線で見てしまった。

石櫃を安置するお堂（川上邸）

川上氏の敷地から華報寺の裏手に抜けると、墓標群の中央に大きな宝篋印塔が立っている。塔身を欠くが二メートル近い大きなもので、県内最大かつ最古級の宝篋印塔とされる。石材は近江産との説明を受け、これだけ大きな

石を越後に運んできた先人の偉大さに思いを馳せる。

その後、華報寺内に安置された優婆尊を拝観し、永仁七年（一二九九）銘の中世板碑を見学。最後は石水亭の庭園にある中世石造物を見て閉会となった。

出湯周辺は何度か訪れたことのある地であったが、地元の方にご案内いただくと、初めて知ることも多く、大変有意義な石仏の会らしい見学会であった。雨の中、傘を片手に丁寧にご案内していただいた川上貞雄氏と、本見学会を企画していただいた岩野笙子氏と水戸律子氏には深く感謝申し上げます。

川上氏による宝篋印塔の説明

多賀城・石巻の被災地を訪ねて

―有志一泊見学会報告―

柏崎市　渡邉　三四一

九月七・八日（日・月）、東日本大震災の被災地を有志十三名で訪ねた。

初日の多賀城市では同市教育委員会の瀧川ちかこ氏から多賀城碑（国重文）や津波で石仏が押し流された八幡神社をご案内いただいた。三年前、瀧川氏から津波で瓦礫と見分けがつき難い被災石仏の救済策について相談を受けたが、その復興ぶりを漸く確認できた。境内の石仏群は無事再建されていたし、鳥居脇には新たに「津波襲来碑」と「いのちの碑」が大震災の記憶を長く後世に伝えるため立てられていた。

途中、塩竈神社を参拝し、牡鹿半島突端の鮎川の宿へ向かう。半島に入ると押し流された家々の基礎が至る所に見える。周辺部の復旧はなお途上だと痛感した。

翌朝チャーター船で金華山黄金山神社へ。波穏やかな十五分の船旅を楽しむ。

いのちの碑（八幡神社）

金華山は多彩な民間信仰を持つが、一番の売りは財福の神。近世中期以降から近在各地に金華山講が組織され代参が盛んに行われるとともに、金華山の供養塔も数多く建立されていった。

一時間余の霊島散策を終え、心持ちだけは豊かに帰路に就いた。

銭を洗う人々（金華山・銭洗い弁天）

事務局だより

◆第18回「石仏フォーラム」開催報告

去る十一月十六日（日）、新潟県立生涯学習推進センター（２Ｆ大研修室）にて、恒例の石仏フォーラムが開催されました。会員三五名、一般六名の参加で、以下、概要を報告します。なお、事務局の不手際により公開講演が午後に変更となり、参加者・関係者に大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

午前第一部は調査研究報告とし、佐藤雅子氏（柏崎市）が「東北被災地の石仏―有志見学会報告―」、渡邉三四一氏（同）が「壱岐・対馬石仏紀行―国境の石神仏たち―」を発表。佐藤氏は九月実施の多賀城・石巻方面への一泊見学会の様子を、渡邉氏は長崎県壱岐対馬での見聞を、ともに画像をふんだんに使用して紹介されました。

講演の水澤幸一氏

午後の第二部は、講師に水澤幸一氏（胎内市教育委員会学芸員）を招き「中世石造物について―新潟県内の資料とのかかわりにおいて―」を聴講。冒頭には前方後円墳の可能性が報道されたばかりの「城の山古墳」について発掘担当者として最新情報を披露いただき、本題へ。講演は、全国の事例を踏まえながら越後の資料を位置づけてゆく懇切でわかりやすい内容で、一般参加者も含め興味深く聴き入った。さらに中世石造物を通して日本海を舞台にした活発な物流が確認できるとし、石仏の資料性を考える上で重要な視点をご教示いただいた。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

続いて渡部浩二氏（長岡市）による「五泉市永谷寺の無縫塔（オボト石）について」の発表があり、江戸期の文献にしばしば名所として記載された当該石仏の歴史と変遷を丹念な史料分析を加えながら報告されました。

最後に情報交換を行い閉会しました。

◆大楽和正氏が「災害と石仏」を講演

中越大震災10周年リレー講演「災害史に学ぶ」の一環として、十一月二十二日（土）、栃尾文化センターで会員・大楽和正氏が「災害と石仏―災厄への怖れと祈り―」と題し講演され、好評でした。

熱心に聴講する会員

編集後記

明けましておめでとうございます。発行が遅くなりましたが新年号をお届けします。今年も石仏との出会いを楽しみたいと念じます。どうぞよろしくお願いします。（下越地区事務局）